

| | | | |
|-------|--|------|--|
| 区分・種別 | 県指定有形文化財（工芸品） | | |
| 名称 | かけぼとけ 懸仏 1面 | | |
| 所在地 | 八幡浜市保内町宮内 | | |
| 所有者 | 三島神社 | 管理団体 | |
| 指定年月日 | 昭和31年11月3日 | | |
| 解説 | <p>この懸仏は、直径33.3cmの円盤に愛染明王坐像と台座が取りつけられ、銅製で総重量1.69kg、円盤の裏面上部の2か所で掛け吊すようになっている。</p> <p>愛染明王坐像は、腕を欠損しているものの、円光に火焰の光背があり、像高16.7cmの半肉彫に鑄造され、金具で円盤に止められている。</p> <p>円盤の裏面に次の銘文があるが、裏返し文字で陽刻（浮彫）である。</p> <p>「願主越前国斉藤 藤原朝臣宗実 建久五年 八月一日」 （建久5年は1194年）</p> <p>このような鑄造は、陰刻の字を鑄型にするため、鑄造の仕上げは陽刻となり、しかも、裏返し文字となる。この手法は、時に見られる形式で、いずれも古い年代に属するものが多い。</p> <p>この懸仏は、建久5（1194）年鎌倉時代初期の作であり、工芸品として、歴史的資料として意義のあるものである。</p> | | |

